残燈奇談 机塵

京傳作

豊國画

207
595

国立国会図書館　残灯奇談机塵：3巻 207-595

ガラス使用

残燈奇談机塵　京傳作
豊国画　八冊

207
595

文化二

国立国会図書館　残灯奇談机塵：3巻 207-595

ガラス使用

楚辞小梅なり。萬葉菊なり。昔の草冊子に序なし。
これ勝間田の池に水なく。遊冶郎の懐に金なきごとし。恭
考ふに序序や。序や。序や。序やべの序とかに小歌乃
流行せし頃より草冊子は序といふものいそがはしくなる。
なりぬ。後我輩不學とおいんとうざる陳奮翰を
なりぬ。不呑込の和語とつぬく庸人とおぐそこくいなりぬ。
はたらくべし。唐山乃倍語とまぢり闇の夜は鉄炮あらぬ。和
訓と附ること。嗚呼おしい重き哉骨と折てあぐさ所が其おぐと
者ハ意味なくて。意味はなくて者ハおぐとくんどくくんば
つくれ我思ひつくものなけれども。作者ハ不學ヱへと
桟敷の御見物半畳とぶらくるぬうち。自己あやま針の療治とよ

文化二年乙丑孟春　山東京傳戯誌

国立国会図書館　残灯奇談机塵：3巻 207-595

ガラス使用

国立国会図書館　残灯奇談机塵：3巻 207-595

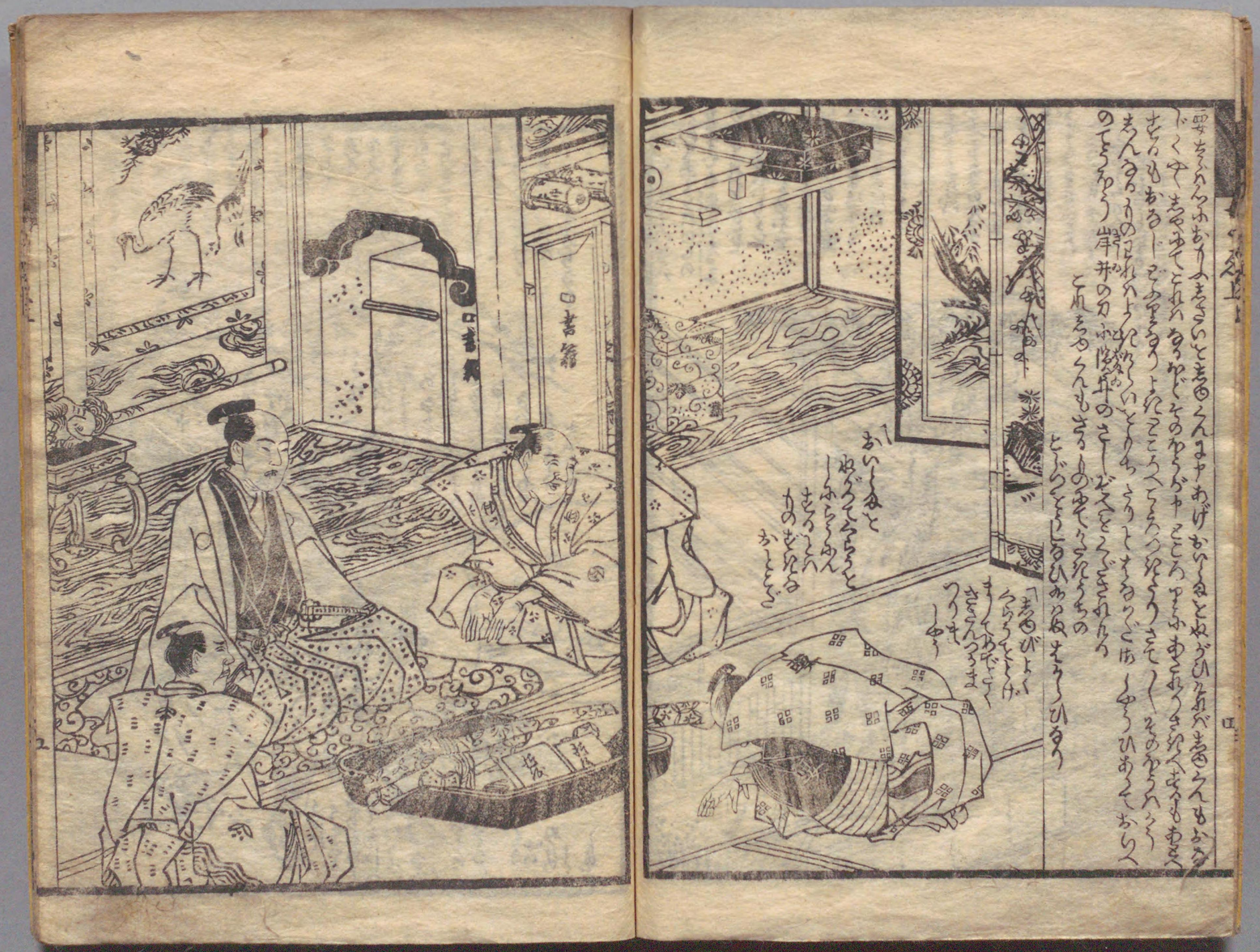
ガラス使用

国立国会図書館　残灯奇談机塵：3巻 207-595

ガラス使用

国立国会図書館　残灯奇談机塵：3巻 207-595

ガラス使用



国立国会図書館　残灯奇談机塵：3巻 207-595

ガラス使用

国立国会図書館　残灯奇談机塵：3巻 207-595

ガラス使用

国立国会図書館　残灯奇談机塵：3巻 207-595

ガラス使用

国立国会図書館　残灯奇談机塵：3巻 207-595

ガラス使用

国立国会図書館　残灯奇談机塵：3巻 207-595

ガラス使用

国立国会図書館　残灯奇談机塵：3巻 207-595

ガラス使用

国立国会図書館　残灯奇談机塵：3巻 207-595

ガラス使用

国立国会図書館　残灯奇談机塵：3巻 207-595

ガラス使用

国立国会図書館　残灯奇談机塵：3巻 207-595

ガラス使用

国立国会図書館　残灯奇談机塵：3巻 207-595

ガラス使用

国立国会図書館　残灯奇談机塵：3巻 207-595

ガラス使用

207
595

国立国会図書館　残灯奇談机塵：3巻 207-595
ガラス使用

国立国会図書館　残灯奇談机塵：3巻 207-595

ガラス使用

国立国会図書館　残灯奇談机塵：3巻 207-595

ガラス使用